

入選

「ありがとう」の代わりに

東京都
私立聖徳学園小学校六年

山田 このみ

「いつてきます」

「父さん、今日は帰ってくる？」

「おう、そのつもりだけど」

「じゃ算数教えてね、いつてらっしゃい」

父は、自宅から五十分かけて自転車で職場へ向かいました。父を見送つてもどつた母が、

「そんなことばっかり言つて、たまには『いつもありがとう』と言つてみたら』と言いました。私は、『そんなの別にいいじゃん！』と思つたのですが、母を怒らせたくなかつたので「はうい」と小さく言いました。

私の父は、小児科の医師で、少し離れた病院で働いています。なので、今朝約束をしてもだいたい私の願いはかたません。幼稚園の頃、私と兄は仕事へ向かう父に、泣きながら「また来てね」とペランダから手を振つて見送つていました。また、家族で出かける朝に病院から電話があつて、予定が中止になったりしてよく私は兄と泣いていました。最近では、家に帰ってくることも多くなり、時間があると遊んでくれたり、私の自転車のかごと壊れて困つていると、知らないうちにかごとを修理してくれたりします。とても優しい父だけど、夏休みが終わつて、友達の家旅行の話の話を聞くとやつぱり私はうらやましく思いながら、そして「しようがないか」と小声で言うと思います。

去年の夏、私と兄は父の働く病院へ忘れ物を届けに行つた

ことがありました。私達は、邪魔にならないように父をさがしました。大きなガラス窓から病院を見てみると、のどから管を通して器械につながつた子の胸に聴診器をあてている父を見つけました。父は、私達に気が付かないらしく、厳しい顔でその子の手に触れて声をかけていました。あんな真剣な父の顔を見たことがなく、私は怖くなつて、ずっと見ていることができませんでした。戸惑つていた二人を看護師さんがある部屋へと案内してくれました。そこには父の机があつて、パソコンを見ると、画面いっぱい兄と私の幼い頃の写真がありました。父が私達のことをここで見てくれたことを知りびっくりしました。そして、はずかしい気持ちとうれしい気持ちになつて「しようがないな、父さんは」と二人で笑つてしまいました。

家族でテレビを見ていて、私が「常習犯つてなに？」と聞いたことがありました。すると兄が「悪い事を繰り返してしまふ人の事だよ。たとえば、『父さんは約束を破る常習犯』みたいにね。」つていたずらっぽく言うと、父も「それを言うなよ」と笑つていました。父の『約束を破る常習犯』は、これからも続くと思います。そして、私達はそれを「しようがない」と小声で言つて許してあげます。私は、父に「ありがとう」と言えない代わりにまた、破られる約束をしようと思います。「今日は花火するよ！早く帰つてね、父さん」

「おう、行つてきます」